



Wilhelm・Conrad・Röntgen
ヴィルヘルム・コンラート・レントゲン
1895年 X線発見

放射線だより

2026年1月
担当：鈴木優太

from Radiation House

心臓カテーテルアブレーション検査は、カテーテルという細い管を腕や足の付け根などから心臓まで挿入し、不整脈の原因となる異常な部分に対して、カテーテルを用いて焼灼または冷凍凝固を行い、不整脈を抑える治療を行います。心臓に管を入れるといっても、カテーテルを入れる部位に数ミリほどの小さな傷がつく程度のため、胸を切り開く必要がなく、患者さんの身体への負担は少ないとされています。

●不整脈とは

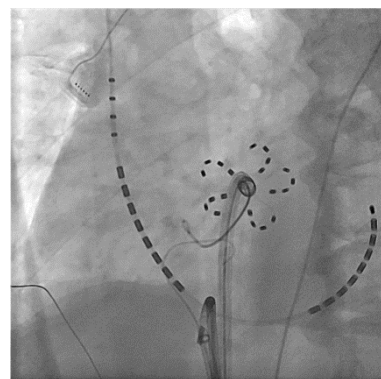
電気興奮が刺激伝導系を正しく伝わらず、刺激伝導系以外の道筋を通過して興奮が伝わったり、司令塔以外の別の場所から異常な電気刺激が発生してしまうと、心臓の規則正しい拍動が乱れ、不整脈になります。

カテーテルアブレーション治療の対象となるのは脈が速くなる「頻脈性不整脈」です。頻脈性不整脈の自覚症状としては、動悸や胸部不快感などがあります。

●経皮的な心筋焼灼術(ABL)

・パルスフィールドアブレーション (PFA)

パルスフィールドアブレーションとは心房細動という不整脈に対するカテーテル治療です。従来の熱エネルギーによる治療とは異なり、PFAは非熱エネルギーを使用します。心臓内（肺静脈内）を特殊な電気ショックによって治療します。PFAの非熱エネルギーは心臓の筋肉に特異的にエネルギーが与えられ、心臓周辺に存在する心臓外組織（食道や神経など）にはほぼ影響がありません。これにより心臓外への合併症が軽減されることが知られています。

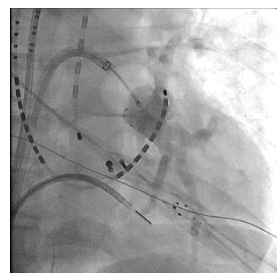


・クライオアブレーション(冷凍凝固心筋焼灼術)

カテーテルの先端についた30mm程のバルーンを用いて、4本の肺静脈を1本ずつ冷凍凝固を行い、心房細動を起こす異常な電気信号を遮断します。短時間での治療が可能です。

・高周波アブレーション

高周波通電により心筋組織の熱凝固を行い治療する方法です。1回の高周波通電で治療できる範囲は5-6mm程度であり、肺静脈周囲を数十回に分けて通電を行い、心房細動を起こす異常な電気信号を遮断します。



わからないことやご不明点などありましたら、診療放射線技師にお尋ねください。
息切れ、胸の痛みなど何か症状がある場合には循環器内科医師にご相談ください。
(文責：御厨)

一般撮影検査を受けられる方へ

一般撮影検査とは

エックス線を見たい部分に当てて、身体を透過した情報から疾患や骨折の有無を調べる検査です。検査部位によって体の姿勢や向きが異なります。

また、より良い画像を撮影するために息止めの合図をすることがありますので診療放射線技師の指示に従ってください。

検査にかかる時間

撮影をする部位と枚数により異なります。一つの部位を撮影に要する時間は数分ですが撮影枚数が多くなるほど、検査時間も増えます。

一つの部位に対していろいろな角度から撮影することもあるため検査時間が10～20分かかることもあります。

また、撮影する部位や方法によって撮影できる部屋が限られている者もあるため患者様の撮影順番が前後することもあります。



検査の注意事項

注意事項

妊娠中または妊娠の可能性がある場合は必ず事前にお知らせください

一般撮影検査で撮影するレントゲン写真には金具・金属・プラスチック・厚手の布製品などが写ります。正確な検査を行うため撮影する部位に以下のものがある場合は取り外しをお願いします。

- ・湿布、カイロ、エレキバン、磁石や針のついた貼り薬
- ・ネックレス、眼鏡などの装飾品
- ・ブラジャー、キャミソール、チャックなど金具やプラスチックのついている衣類
- ・コルセット、サポーターなどの厚手の取り外し可能な保護具・補助具

